〔J. Nat. Cancer Inst. 63, 469 (1979)〕

Induction of Hepatic Tumors in Rats by Senkirkine and Symphytine

IWAO HIRONO[1], MASANOBU HAGA[2], MASAHIKO FUJII[3], SHIN MATSUURA, NAGAKI MATSUBARA[3], MASAAKI NAKAYAMA[1], TSUTOMU FURUTA[4], MANABU HIKIJI[4], HITOSHI TAKANASHI, EIJI UCHIDA[3], SHIGETOSHI HOSAKA[3], IKUKO UENO[3]

Senkirkine および Symphytine を用いるラットにおける肝癌の誘発

廣野 巖[1]，羽賀正信[2]，藤井雅彦[3]，松浦 信，松原長樹[3]，中山正明[1]，古谷 力[4]，引地 学[4]，高梨 均[3]，内田英二[3]，保坂成俊[3]，上野郁子[3]

ACI 系雄ラットに対して senkirkine と symphytine——ピロリジン系アルカロイド——の発癌に及ぼす影響について研究した。

すなわち，ACI 系ラットを1群20匹づつ，つぎの3群について実験を行なった。

Group 1：Senkirkine 22mg/kg(LD50の10%)を0.9% NaCl 水溶液に溶解し，初めの4週間は週に2回，ついで週1回で52週間腹腔内に注射した。

Group 2：Symphytine 13mg/kg(LD50の10%) を group 1 と同じ条件で腹腔内に注射した。

Group 3：対照群として0.9% NaCl 水溶液を体重100g当り0.1ml の割合で腹腔内に注射した。

結果：Group 1 のラットは注射開始後290日以上生存し，20匹中9匹に肝細胞腺腫のひろがりを認めた。

Group 2 のラットは注射開始後330日以上生存し，20匹中4匹に肝癌が，3匹に血管内皮腫が，1匹には肝細胞腺腫が認められた。このうち，血管内皮腫を認めたラットは注射開始後518，538，565日目に死亡したもので，3匹中2匹に肉腫の肺への転位が観察された。

1) 東京大学医科学研究所，2) 東日本学園大学薬学部 3) 岐阜大学医学部 4) 北里大学薬学部